

オリンピック・パラリンピック教育アワード校受賞

副校長 石川 貴美子

若葉が光り輝く季節になりました。今年度入学してきた60名の1年生が元気に校庭を走り回って遊んでいます。朝の教室では、はりきって登校し、6年生の児童が一生懸命、1年生のお世話をしています。6年生は休み時間も返上して、1年生のためになることを考え工夫しています。そうした1年生は学校生活にも慣れ、自分のことは自分でできるようになってきました。

さて、あと数日で平成31年から令和元年となります。平成の時代を振り返り、希望をもって新しい時代に踏み出していきたいです。そして令和2年には、「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が東京で開催されます。

本校は、東京都の「オリンピック・パラリンピック教育のアワード校」「文化プログラム学校連携事業」の2つに選ばれました。どちらも東京都内の小中学校で150校しか選ばれないものです。今まで人権教育の一環として総合的な学習の時間に「視覚障害」「聴覚障害」など様々な障害や障害者について学び、自分たちはどのように関わっていったらよいか考えてきた実績が認められた結果となりました。

オリンピック・パラリンピック教育では、昨年度も障害者理解に重点をおき「パラバドミントン」「車いすバスケット」「パラ卓球」「ウィルチェアーラグビー」「障害者陸上」などの競技の観戦や体験、選手との交流を行いました。

2月に行った陸上チーム「ACキタ」との交流では、2年生以上の児童が選手と一緒に走ったりお話を伺ったりしました。その中で次のような感想があげられました。

今日、学校に陸上選手がきました。パラリンピックの選手でした。私は選手からあきらめない心を学びました。実際に選手と走ってみると、すごく速くてびっくりしました。私はできなくなるとすぐにあきらめてしまうので、選手を見習いたいです。来年のパラリンピックでの活躍を期待しています。

2時間目の最初に選手と競走をしました。ものすごく速くてびっくりしました。それをお手本にして走ったらスタートが速くなり、足も速くなりました。4時間目は選手の話の話を聞きました。工夫をすること、努力をすること、出来ることから少しずつやる事が大事だとわかりました。(以下略)

選手との交流を通して、子供たちは様々なことを感じ、学びました。そして頑張っている選手を応援したいと願い、自分ができることを考えました。しかし、どのように応援したらよいか分からないという課題にぶつかりました。そこで区内のチアリーディングチームのコーチにご来校頂き、3、4年生が応援の仕方を教わりました。応援することの楽しさを味わい、3年生は6年生を送る会でチアリーディングを披露しました。応援された6年生も元気が出てとても喜んでいました。今年度は、応援の仕方を学ぶ機会を増やし、実際にオリンピックやパラリンピックの選手を応援することを計画していきたいと考えています。

また引き続き選手に来校頂き、「ブラインドサッカー」「ハンドボール」「フェンシング」などを体験したり、「ウィルチェアーラグビー」の国際大会を観戦したりする予定です。さらに障害のある方々との交流の場もつくっていききたいと考えています。

年間5回ほど土曜日にリアル観戦事業があります。学校でも引率いたしますが、多くの方に見て頂きたいので、保護者の皆様も参加していただければと思います。区内では2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会のテストイベントも開かれます。東京での開催をみんなで盛り上げ、児童の心に残る1ページにしていきたいです。



今年度の担当者と表彰状